

日本医史学雑誌 第三十八卷第四号 目次

原 著

藤林普山とその子孫、門人録……………森 納……………五二

明治初期医師養成教育と衛生観……………瀧澤 利行……………五三

島邨俊一小伝——悲運の精神病学者……………岡田 靖雄……………六〇三

『素問』・『靈樞』における脾の生理作用——蘭方医学との比較——……………遠藤次郎・中村輝子……………六二七

研究ノート

外国人研究者による日本人顔貌のタイプ……………吉岡 郁夫……………六四九

広 場

仏典とスシユルタ本集にみられる酒の評価……………杉田 暉道……………六五五

追 悼

藤野恒三郎氏逝く……………長門谷洋治……………六六三

資 料

池田文書の研究(八)……………池田文書研究会……………六六七

記 事

消 息…………………………六九七

例会記録…………………………六九八

紹介

新村拓著『老いと看取りの社会史』	中村昭	六九八
岩田誠著『パリ医学散歩』	清水陽人	六九八
松尾信一編・著『解馬新書の調査研究』	坂本勇	七〇三
富士川英郎著『讀書閒適』	三輪卓爾	七〇三
陸別町役場町史編さん室『原野を拓く——関寛 開拓の理想とその背景——』	大西泰久	七〇四
松下正明編著『精神医学を築いた人びと』(上・下)	岡田靖雄	七〇六
日本医史学雑誌第三十八巻総目次		七一一

《本号の表紙絵》

渡辺華山「ビュルゲル像図」

シイボルト (1796-1865) が長崎出島に招いたドイツ系ユダヤ人薬剤師ハインリッヒ・ビュルゲル (1806-58) が文政9年(1829)の江戸参府随行時、渡辺華山(1793-1841)が江戸本石町長崎屋に訪問、描いた肖像画。シイボルト事件後も出島商館医として天保6年(1835)まで滞在、ジャワ植物園に日本茶の種苗を移植、シイボルトの日本研究に協力した。図中の洋机台にオランダ東インド会社VOCのマークが入れてあり、机上に洋書4冊、蠟燭台2本、洋紙、雑記帳を乗せ、本人は鵝ペンで執筆中。窓際に丸机を置き、一座の人物は10人(右から河野良庵、1人おいて華山、田中英潤、通詞下役成瀬集公とその家来5人)を描く。成瀬らの位置に、日本茶、コーヒー用水差2個、茶碗と茶托、コーヒー碗と受皿および洋燭台2本を乗せた机の下絵を重複する。(槽谷縫右衛門氏蔵。宗田一氏紹介)

(中西 啓)